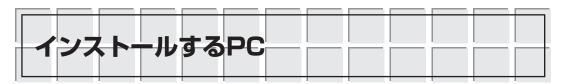
http://shop.cgpub.co.jp/hanbai/books/40/40831.html

第4章 XenServerのインストール準備



それでは、XenServerをインストールしてみましょう。ここでは、以下にあげるスペックのPC (パソコン) に、XenServerの無償配布版であるExpress Editionのバージョン4.0.1をインストールします(表4.1)。ちなみに、Express Editionインストール後、上位パッケージにバージョンアップすることは非常に簡単です。

実際に動作が確認されているハードウェアの情報が、次のURLに集まっています。

http://hcl.xensource.com/

今回、XenServerをインストールするPCのスペックは、表4.2のとおりです。

●注意

XenServerは、マルチ・ブートをサポートしていません。少なくともインストーラは工程の中でハードディスクを1基、XenServer専用として初期化しますので、1基のハードディスクの中にパーティション単位でXenServerとほかのOSとを混在させることはできません。

GUIによるXenServerの管理ツールであるXenCenterのインストールも行いますが、これはネットワーク経由で接続したWindows上で動作します。こちらはWindowsで動作する一つのアプリケーション・ソフトウェアという位置付けですから、すでにWindowsが動作しているPCであれば、インストールおよび実行に不都合はないと思います。

XenCenterを動作させるハードウェアのスペックを**表4.3**に示します. 今回は,**表4.4**のスペックのハードウェアにインストールしました.

表4.1 XenServerが動作するPCのスペック

仮想マシンをWindowsで動かしたい場合はCPUに注意が必要.

リソース	スペック例
СРИ	一つ以上の64bit x86 CPU:最低1.5GHz 推奨2GHz以上のマルチ・コア. Windows仮想マシンを利用する場合は、Intel VTまたはAMD-Vに対応していること. 準仮想化に対応しているLinuxであれば、通常のx86ベースのシステムでよい. マザーボードのBIOSでの仮想マシン・サポート Windows仮想マシンを利用する場合はBIOSで仮想マシン・サポートを有効にする.
メモリ	最小1Gバイト, 推奨2Gバイト以上.
ディスク(仮想ソフト ウェア用のスペース)	ローカル・ハードディスク (PATA, SATA, SCSI) 最低16Gバイト, 推奨60Gバイト.
ディスク(仮想マシンに 割り当てるスペース)	仮想マシン上で動作させるOSにより異なる. 例: Debianのテンプレートでは, rootに1Gバイト, swapに512Mバイト割り当てる. RHEL 4.1 または 4.4のインストーラは, rootに8Gバイト割り当てる.
ネットワーク	100Mbpsあるいはそれより高速なNIC. P2Vツールの利用や仮想マシンのエクスポート,インポートを行う場合は,ギガビット・イーサネットを推奨.